



## 下水道モニター 平成27年度第5回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行なっています。

第5回アンケートでは、『東京都下水道事業経営計画 2013』における各施策について、どのように進めるべきかについてうかがいました。

この報告書は、その結果をまとめたものです。

- ◆実施期間 平成28年1月29日(金)～2月17日(水)20日間
- ◆対象者 東京都下水道局「平成27年度下水道モニター」  
※東京都在住20歳以上の男女個人
- ◆回答者数 440名
- ◆調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート

### 【目次】

- I 結果の概要
- II 回答者属性
- III 集計結果
  - 1. 下水道についてのイメージ
  - 2. 下水道事業の情報源について
  - 3. 下水道管の再構築について
  - 4. 浸水対策のための施設整備について
  - 5. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設について
  - 6. 合流式下水道の課題への取組
  - 7. 下水の処理方法
  - 8. 地球温暖化対策について
  - 9. 各施策の重要度

# I 結果の概要

## 1. 下水道についてのイメージ 6～8頁

### ■ 【下水道のイメージ】

- (全体) 下水道のイメージについては、「日常生活に欠かせない」が86.1%と最も高く、次いで「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」が84.8%、「川や海の水質汚濁を防ぐ」が58.4%であった。
- (性別) 性別で見ると、「日常生活に欠かせない」は男性が86.3%、女性が86.0%と男性の方が0.3ポイント高く、「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は男性が83.3%、女性が86.5%と女性の方が3.2ポイント高かった。
- (年代別) 年代別で見ると、「日常生活に欠かせない」は60歳代が93.5%と最も高く、次いで70歳以上が89.7%、50歳代が88.7%であり、「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は60歳代が93.5%と最も高く、次いで70歳以上が89.7%、20歳代が86.7%であった。
- (地域別) 地域別で見ると、「日常生活に欠かせない」は23区が85.7%、多摩地区が86.8%と多摩地区の方が1.1ポイント高く、「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は23区が83.7%、多摩地区が86.2%と多摩地区の方が2.5ポイント高かった。

## 2. 下水道事業の情報源 9～12頁

### ■ 【下水道事業の情報源】

- (全体) 下水道事業の情報源については、「広報東京都」が58.0%と最も高かった。次いで「ニュース東京の下水道(下水道局広報紙)」が30.2%、「市区町村の掲示板・広報誌」が29.3%であった。
- (性別) 性別で見ると、「広報東京都」は70歳以上が82.8%と最も高く、次いで60歳代が75.3%、50歳代が58.8%であり、「ニュース東京の下水道(下水道局広報紙)」は70歳以上が44.8%と最も高く、次いで60歳代が44.2%、50歳代が30.9%であった。
- (年代別) 年代別で見ると、「広報東京都」は70歳以上が85%と最も高く、次いで50歳代が81%、60歳代が79%であり、「ニュース東京の下水道(下水道局広報紙)」は70歳以上が53%と最も高く、次いで60歳代が45%、40歳代と50歳代がともに40%であった。
- (地域別) 地域別で見ると、「広報東京都」は23区が59.4%、多摩地区が56.1%と23区の方が3.3ポイント高く、「ニュース東京の下水道(下水道局広報紙)」は23区が34.7%、多摩地区が24.3%と23区の方が10.4ポイント高かった。

### 3. 下水道管の再構築について 13頁

#### ■ 【下水道管の再構築】

- (全体) 下水道管の再構築については、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」が62.0%と最も高く、次いで「耐用年数を超過している下水道管の割合」が19.1%であった。
- (性別) 性別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は男性が59.6%、女性が65.0%と女性の方が5.4ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は男性が24.2%、女性が13.0%と男性の方が11.2ポイント高かった。
- (年代別) 年代別でみると「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は50歳代が70.1%と最も高く、次いで60歳代が66.2%となっており、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は30歳代が25.0%と最も高く、次いで40歳代が20.5%であった。
- (地域別) 地域別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は23区が63.7%、多摩地区が59.8%と23区の方が3.9ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は23区が19.5%、多摩地区が18.5%と23区の方が1ポイント高かった。

### 4. 浸水対策のための施設整備 14頁

#### ■ 【浸水対策のための施設整備】

- (全体) 浸水対策のための施設整備については、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める(施設の整備に時間と費用がかかる)」が41.8%と最も高く、次いで「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る(施設の整備に時間と費用がかかる)」が36.1%であった。
- (性別) 性別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める(施設の整備に時間と費用がかかる)」は男性が43.8%、女性が39.5%と男性の方が4.3ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る(施設の整備に時間と費用がかかる)」は男性が34.2%、女性が38.5%と女性の方が4.3ポイント高かった。
- (年代別) 年代別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める(施設の整備に時間と費用がかかる)」は70歳以上が51.7%と最も高く、次いで50歳代が45.4%、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る(施設の整備に時間と費用がかかる)」は70歳以上を除いて、年齢が下がるにつれ割合が高くなっており、20歳代では46.7%であった。
- (地域別) 地域別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める(施設の整備に時間と費用がかかる)」は23区が39.0%、多摩地区が45.5%と多摩地区の方が6.5ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る(施設の整備に時間と費用がかかる)」は23区が39.8%、多摩地区が31.2%と23区の方が8.6ポイント高かった。

## 5. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設 15～18 頁

### ■ 【優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設】

- (全体) 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設については、「病院・診療所などの医療機関」が55.2%と最も高く、次いで「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」が53.0%、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設(コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど)」が49.8%であった。
- (性別) 性別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は男性が55.0%、女性が55.5%と女性の方が0.5ポイント高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は男性が49.6%、女性が57.0%と女性の方が7.4ポイント高かった。
- (年代別) 年代別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は30歳代が61.8%と最も高く、次いで50歳代が56.7%、60歳代が54.5%であり、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は70歳以上が62.1%と最も高く、次いで60歳代が57.1%、50歳代が54.6%であった。また、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設(コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど)」は70歳以上が75.9%と最も高く、次いで20歳代が60.0%であった。
- (地域別) 地域別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は23区が53.4%、多摩地区が57.7%と多摩地区の方が4.3ポイント高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は23区が51.8%、多摩地区が54.5%と多摩地区の方が2.7ポイント高かった。

## 6. 合流式下水道の課題への取組 19 頁

### ■ 【合流式下水道の課題への取組】

- (全体) 合流式下水道の課題への取組については、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」が41.4%と最も高く、次いで「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」が36.6%であった。
- (性別) 性別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は男性が44.2%、女性が38.0%、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は男性が37.1%、女性が36.0%と男性の方がそれぞれ6.2ポイント1.1ポイント高かった。
- (年代別) 年代別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」と「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」はともに70歳以上がそれぞれ55.2%、44.8%と最も高く、次いで60歳代がそれぞれ45.5%、40.3%であった。
- (地域別) 地域別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は23区が45.0%、多摩地区が33.1%と23区の方が11.9ポイント高く、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は23区が36.5%、多摩地区が41.3%と多摩地区の方が4.8ポイント高かった。

## 7. 下水の処理方法 20 頁

### ■ 【下水の処理方法】

- (全体) 下水の処理方法については、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」が65.0%と最も高く、次いで「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」が25.0%であった。
- (性別) 性別でみると、「質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」は男性が63.8%、女性が66.5%と女性の方が2.7ポイント高かった。
- (年代別) 年代別でみると、「質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」は30歳代が69.7%と最も高く、次いで20歳代が66.7%、60歳代が66.2%であった。
- (地域別) 地域別でみると、「質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」は23区が64.9%、多摩地区が65.1%と多摩地区の方が0.2ポイント高かった。

## 8. 地球温暖化対策について 21 頁

### ■ 【地球温暖化対策】

- (全体) 地球温暖化対策については、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」が51.4%と最も高く、次いで「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」が33.6%であった。
- (性別) 性別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は男性が49.2%、女性が54.0%と女性の方が4.8ポイント高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は男性が36.7%、女性が30.0%と男性の方が6.7ポイント高かった。
- (年代別) 年代別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は30歳代が55.3%と最も高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は60歳代が40.3%と最も高かった。
- (地域別) 地域別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は23区が50.6%、多摩地区が52.4%と多摩地区の方が1.8ポイント高かった。

## 9. 各施策の重要度 22~28 頁

### ■ 【各施策の重要度】

- (全体) 各施策の重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた【重要】は、「老朽化施設の再構築」が95.9%と最も高く、次いで「浸水対策」が92.7%、「下水道施設の耐震化」が90.5%であった。

## Ⅱ 回答者属性

- 平成27年度下水道モニター数は、アンケート実施時で808名であった。
- 第5回アンケートは、平成26年1月29日（金）から2月17日（水）までの20日間で実施した。その結果、440名の方から回答があった。（回答率54.5%）

### ■ 回答者 性別

性別	モニター数	回答者数	回答率
男性	418	240	57.4%
女性	387	200	51.7%
無回答	3	0	0.0%
<b>全体</b>	<b>808</b>	<b>440</b>	<b>54.5%</b>

### ■ 回答者 年代別

年代別	モニター数	回答者数	回答率
20歳代	52	15	28.8%
30歳代	181	76	42.0%
40歳代	260	146	56.2%
50歳代	139	97	69.8%
60歳代	121	77	63.6%
70歳以上	52	29	55.8%
無回答	3	0	0.0%
<b>合計</b>	<b>808</b>	<b>440</b>	<b>54.5%</b>

### ■ 回答者 居住地

居住地	モニター数	回答者数	回答率
23区	461	251	54.4%
多摩地区	346	189	54.6%
無回答	1	0	0.0%
<b>合計</b>	<b>808</b>	<b>440</b>	<b>54.5%</b>

### ■ 回答者 職業

職業	モニター数	回答者数	回答率
会社員	356	190	53.4%
自営業	67	36	53.7%
学生	12	3	25.0%
私立学校教員・塾講師	6	3	50.0%
パート	71	41	57.7%
アルバイト	21	15	71.4%
専業主婦	150	74	49.3%
無職	90	62	68.9%
その他	32	16	50.0%
無回答	3	0	0.0%
<b>合計</b>	<b>808</b>	<b>440</b>	<b>54.5%</b>

## Ⅲ 集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率(%)はすべて「n」を基数(100%)として算出している。  
また、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が100%にならないこともある。

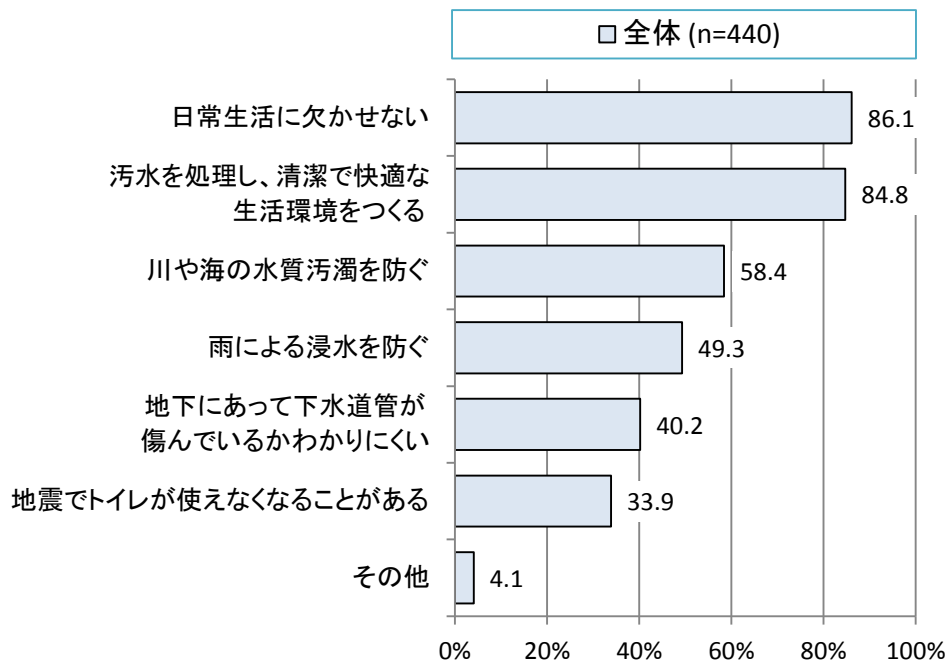
### 1. 『下水道についてのイメージ』

#### 1-1. 下水道のイメージ〔全体〕

- ◆ 下水道のイメージについては、「日常生活に欠かせない」が86.1%と最も高く、次いで「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」が84.8%、「川や海の水質汚濁を防ぐ」が58.4%であった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。(複数回答)

図1-1 下水道のイメージ〔全体〕

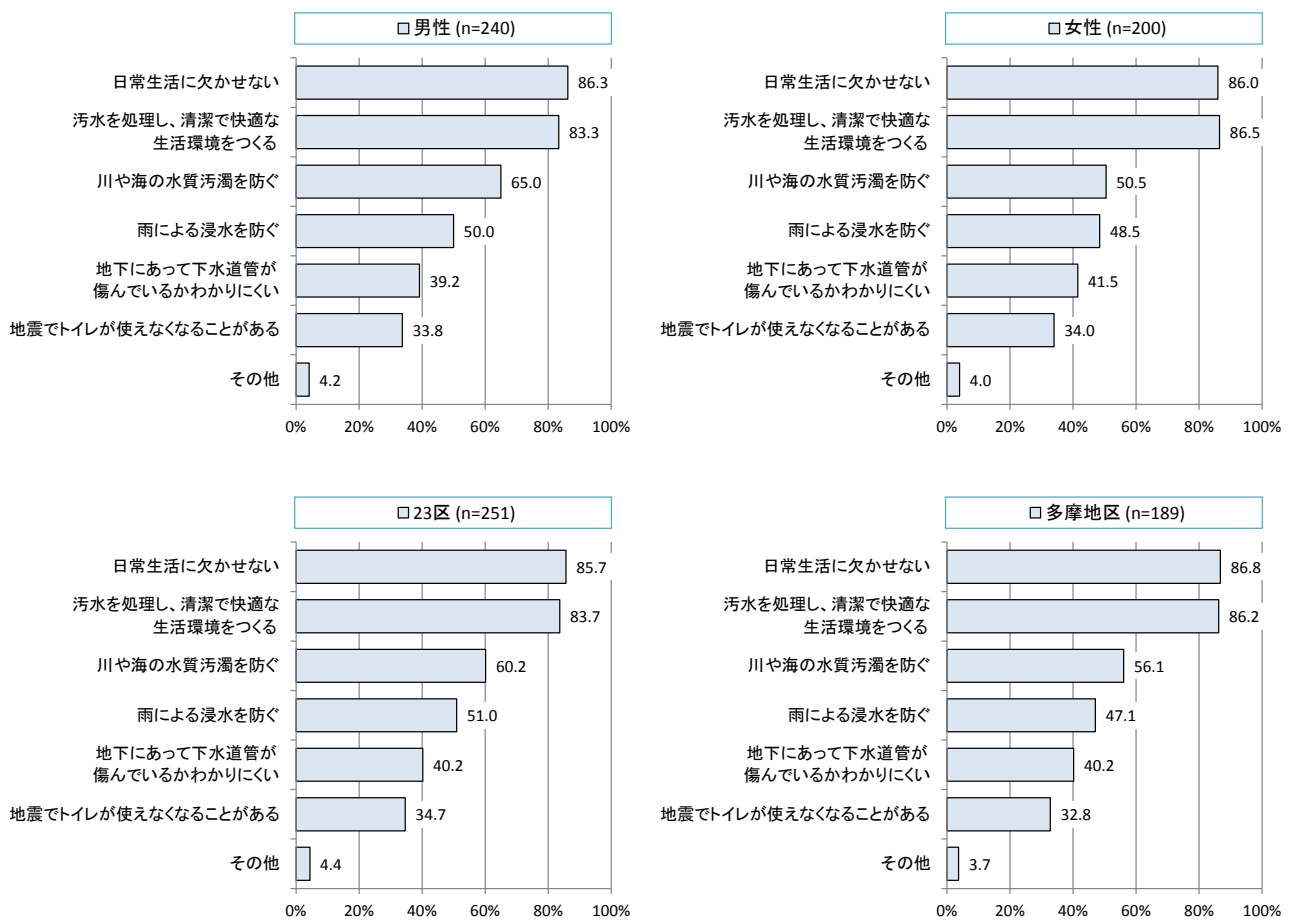


## 1-2. 下水道のイメージ〔性別・地域別〕

- ◆ 性別でみると、「日常生活に欠かせない」は男性が 86.3%、女性が 86.0%と男性の方が 0.3 ポイント高く、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は男性が 83.3%、女性が 86.5%と女性の方が 3.2 ポイント高かった。
- ◆ 地域別でみると、「日常生活に欠かせない」は 23 区が 85.7%、多摩地区が 86.8%と多摩地区の方が 1.1 ポイント高く、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は 23 区が 83.7%、多摩地区が 86.2%と多摩地区の方が 2.5 ポイント高かった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図 1-2 下水道のイメージ〔性別・地域別〕



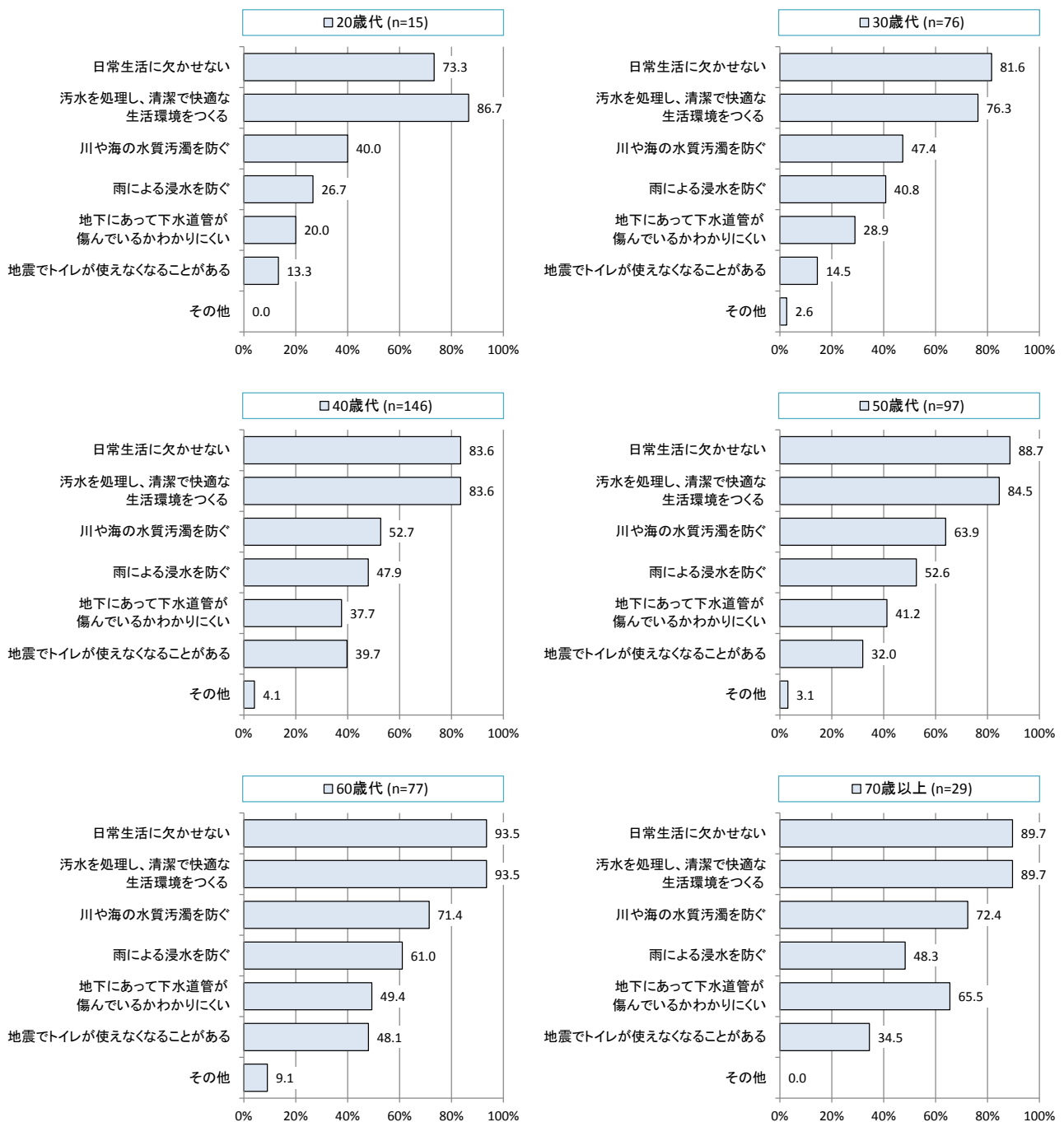


### 1-3. 下水道のイメージ〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「日常生活に欠かせない」は60歳代が93.5%と最も高く、次いで70歳以上が89.7%、50歳代が88.7%であり、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は60歳代が93.5%と最も高く、次いで70歳以上が89.7%、20歳代が86.7%であった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図1-3 下水道のイメージ〔年代別〕



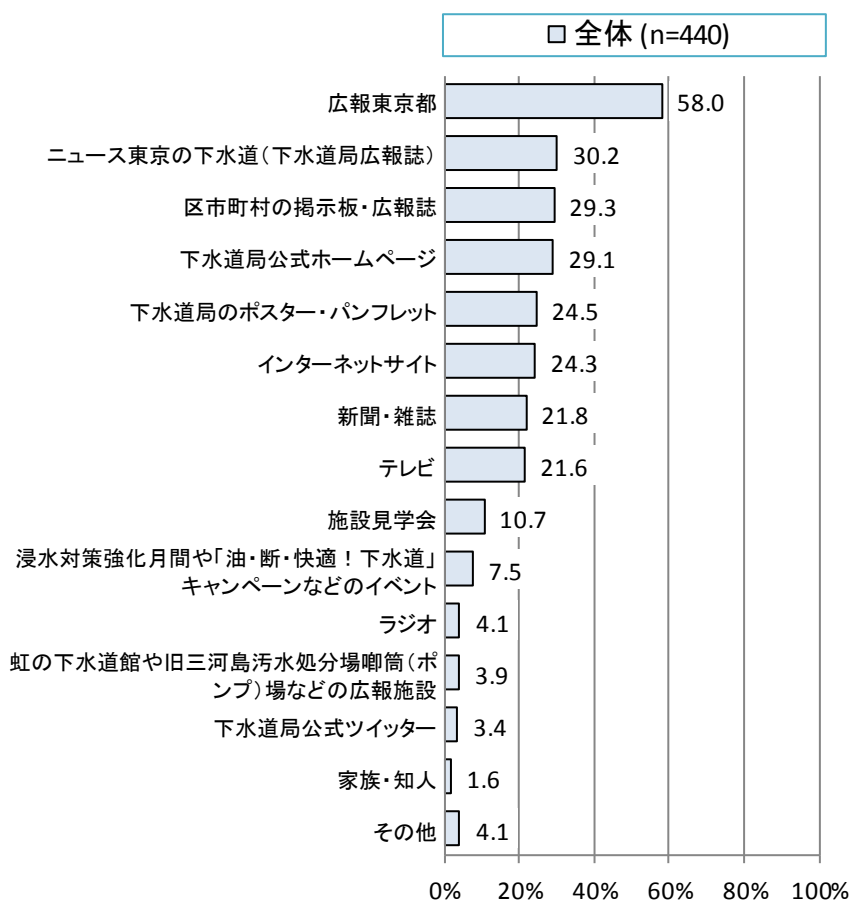
## 2. 『下水道事業の情報源』

### 2-1. 下水道事業の情報源〔全体〕

- ◆ 下水道事業の情報源については、「広報東京都」が58.0%と最も高かった。次いで「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」が30.2%、「市区町村の掲示板・広報誌」が29.3%であった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-1 下水道事業の情報源〔全体〕

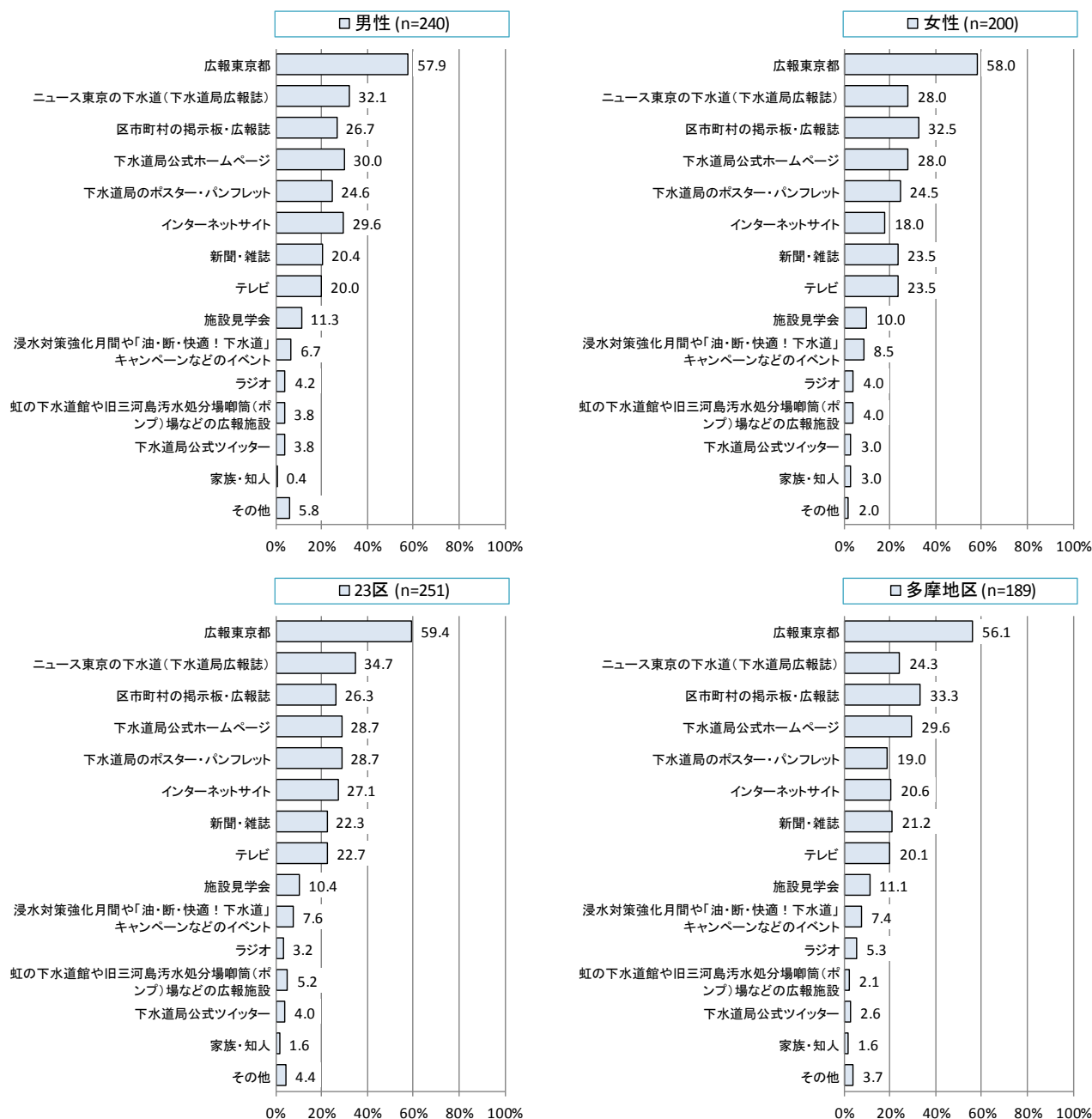


## 2-2. 下水道事業の情報源〔性別・地域別〕

- ◆ 性別で見ると、「広報東京都」は男性が57.9%、女性が58.0%と女性の方が0.1ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報誌）」は男性が32.1%、女性が28.0%と男性の方が4.1ポイント高かった。
- ◆ 地域別で見ると、「広報東京都」は23区が59.4%、多摩地区が56.1%と23区の方が3.3ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報誌）」は23区が34.7%、多摩地区が24.3%と23区の方が10.4ポイント高かった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-2 下水道事業の情報源〔性別・地域別〕

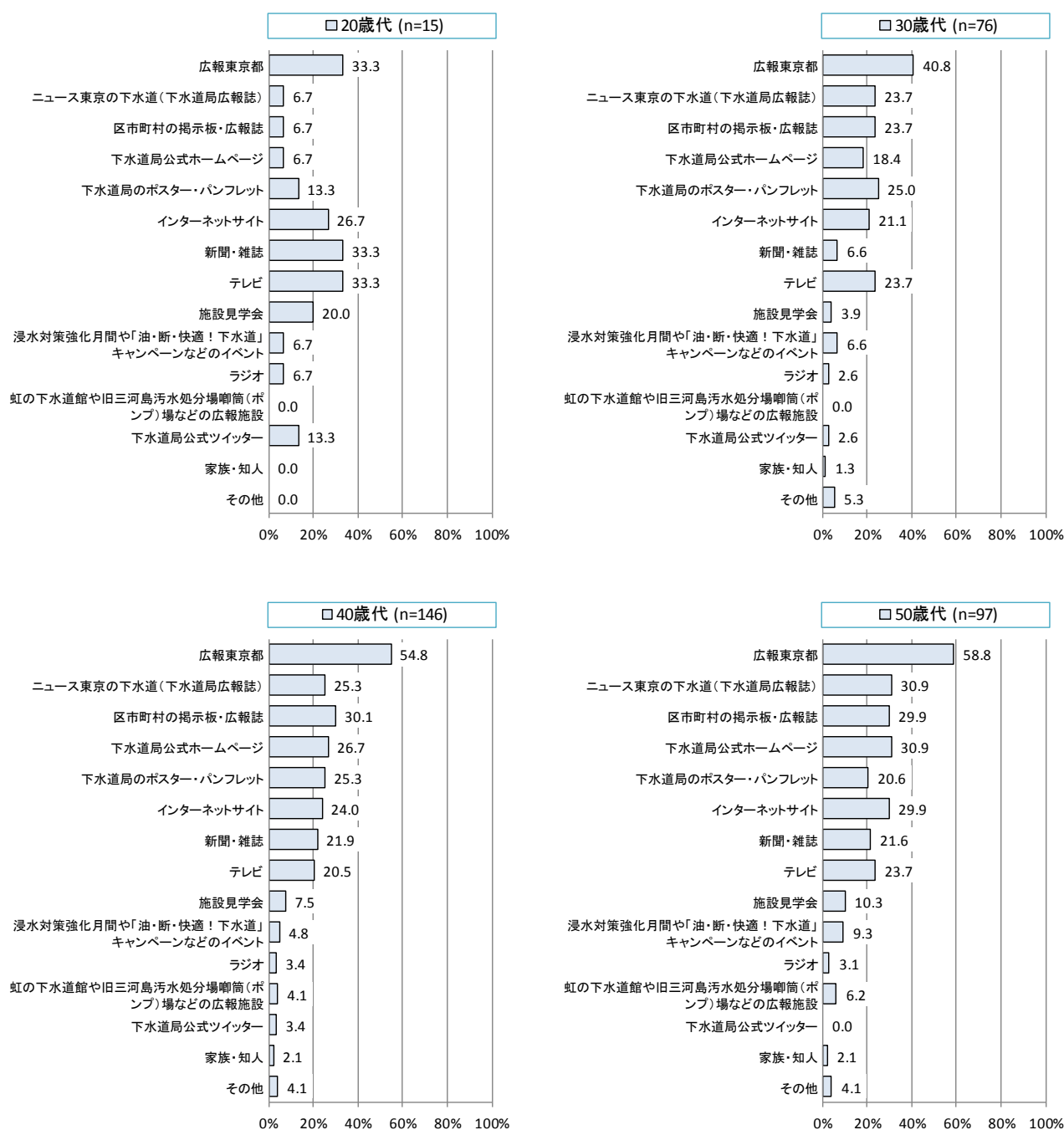


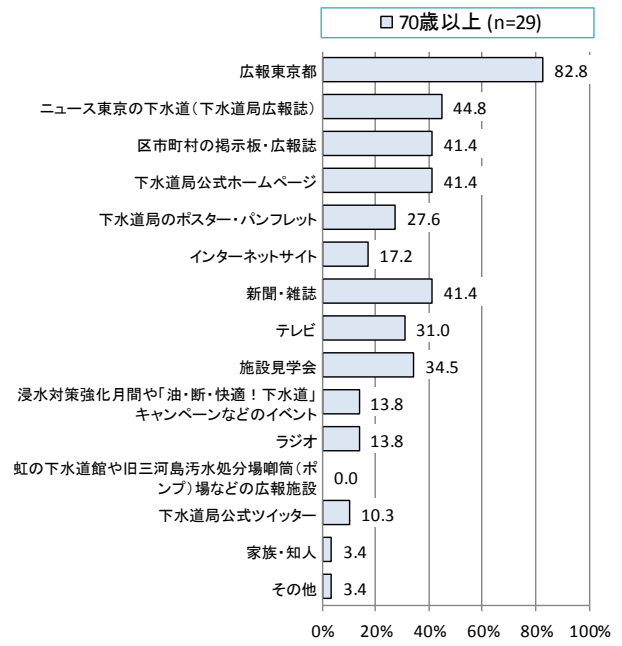
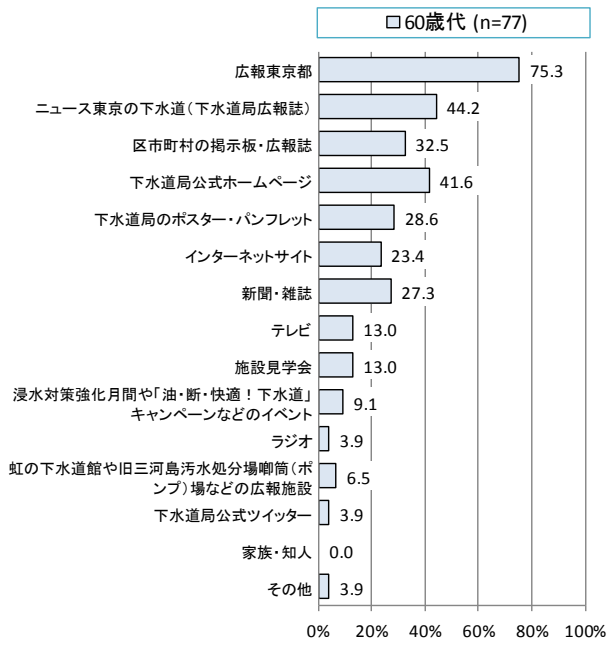
## 2-3. 下水道事業の情報源〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「広報東京都」は70歳以上が82.8%と最も高く、次いで60歳代が75.3%、50歳代が58.8%であり、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は70歳以上が44.8%と最も高く、次いで60歳代が44.2%、50歳代が30.9%であった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-3 下水道事業の情報源〔年代別〕





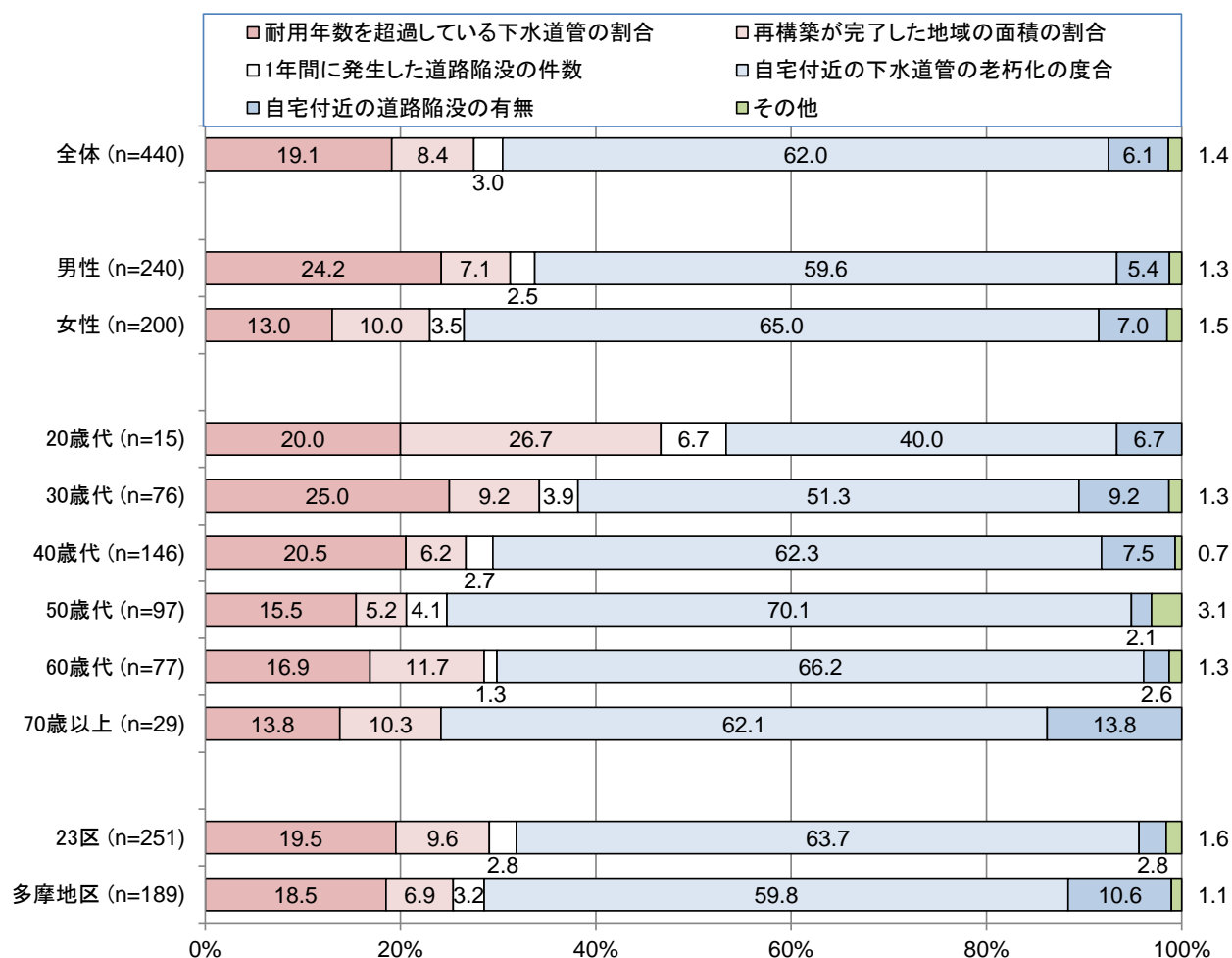
### 3. 『下水道管の再構築について』

#### 3-1. 下水道管の再構築

- ◆ 下水道管の再構築については、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」が62.0%と最も高く、次いで「耐用年数を超過している下水道管の割合」が19.1%であった。
- ◆ 性別で見ると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は男性が59.6%、女性が65.0%と女性の方が5.4ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は男性が24.2%、女性が13.0%と男性の方が11.2ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は50歳代が70.1%と最も高く、次いで60歳代が66.2%となっており、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は30歳代が25.0%と最も高く、次いで40歳代が20.5%であった。
- ◆ 地域別で見ると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は23区が63.7%、多摩地区が59.8%と23区の方が3.9ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は23区が19.5%、多摩地区が18.5%と23区の方が1ポイント高かった。

Q7. 下水道管の再構築に関する情報としてあなたが知りたいことについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。(単一回答)

図3-1 下水道管の再構築



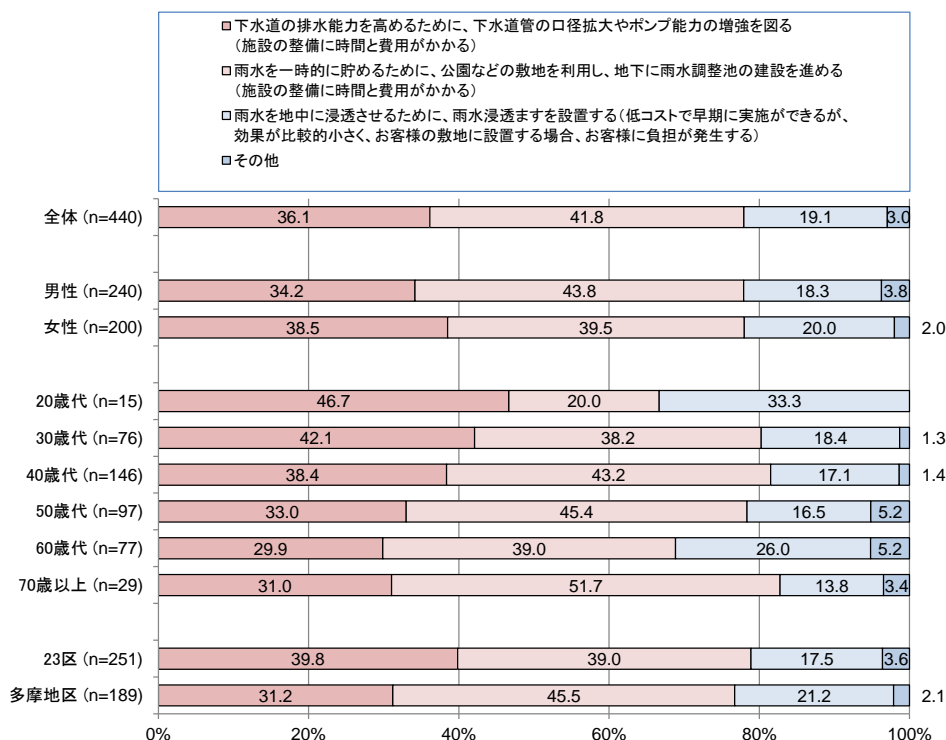
## 4. 『浸水対策のための施設整備』

### 4-1. 浸水対策のための施設整備

- ◆ 浸水対策のための施設整備については、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」が 41.8%と最も高く、次いで「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」が 36.1%であった。
- ◆ 性別で見ると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が 43.8%、女性が 39.5%と男性の方が 4.3 ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が 34.2%、女性が 38.5%と女性の方が 4.3 ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 70 歳以上が 51.7%と最も高く、次いで 50 歳代が 45.4%であった。「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 70 歳以上を除いて、年齢が下がるにつれ割合が高くなっており、20 歳代では 46.7%であった。
- ◆ 地域別で見ると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 23 区が 39.0%、多摩地区が 45.5%と多摩地区の方が 6.5 ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 23 区が 39.8%、多摩地区が 31.2%と 23 区の方が 8.6 ポイント高かった。

Q8. 下水道による浸水対策に関し、あなたが重点を置くべきと思うものについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図4-1 浸水対策のための施設整備



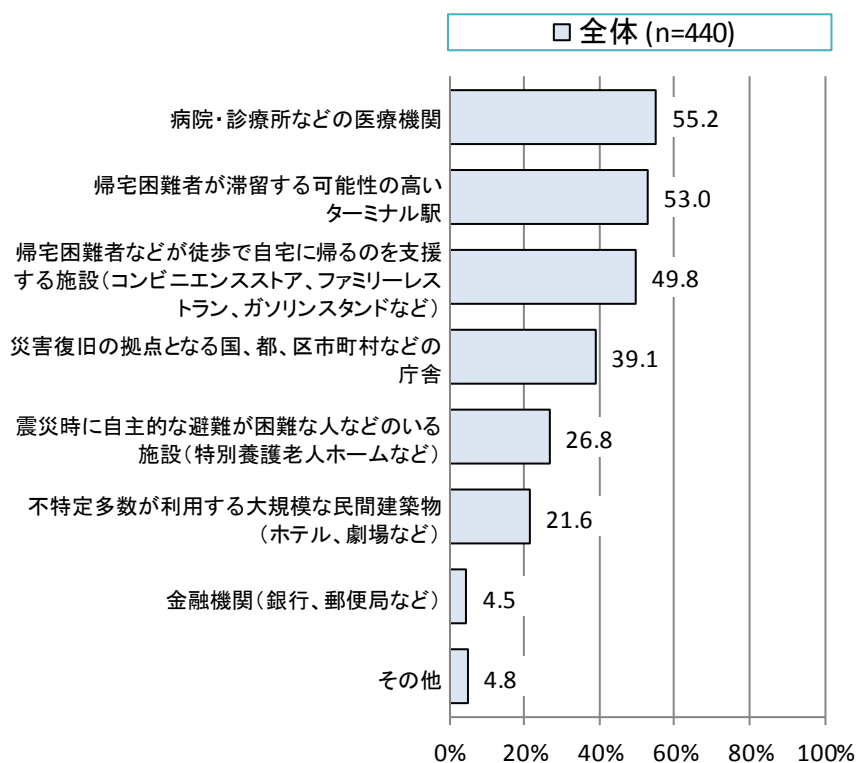
## 5. 『優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設』

### 5-1. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔全体〕

- ◆ 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設については、「病院・診療所などの医療機関」が55.2%と最も高く、次いで「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」が53.0%、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」が49.8%であった。

Q9. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図5-1 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔全体〕



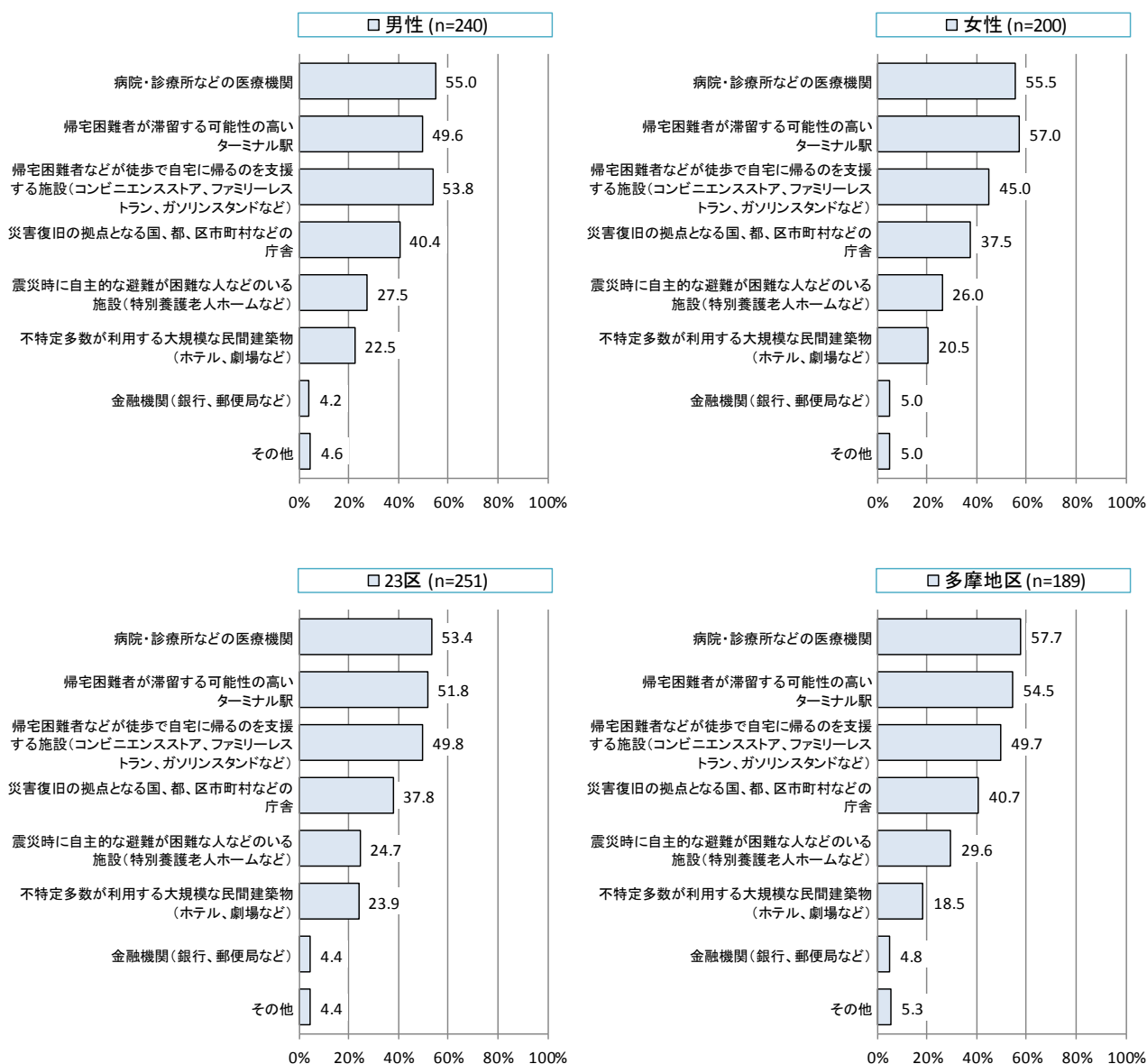


## 5-2. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔性別・地域別〕

- ◆ 性別で見ると、「病院・診療所などの医療機関」は男性が 55.0%、女性が 55.5%と女性の方が 0.5 ポイント高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は男性が 49.6%、女性が 57.0%と女性の方が 7.4 ポイント高かった。
- ◆ 地域別で見ると、「病院・診療所などの医療機関」は 23 区が 53.4%、多摩地区が 57.7%と多摩地区の方が 4.3 ポイント高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は 23 区が 51.8%、多摩地区が 54.5%と多摩地区の方が 2.7 ポイント高かった。

Q9. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図5-2 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔性別・地域別〕

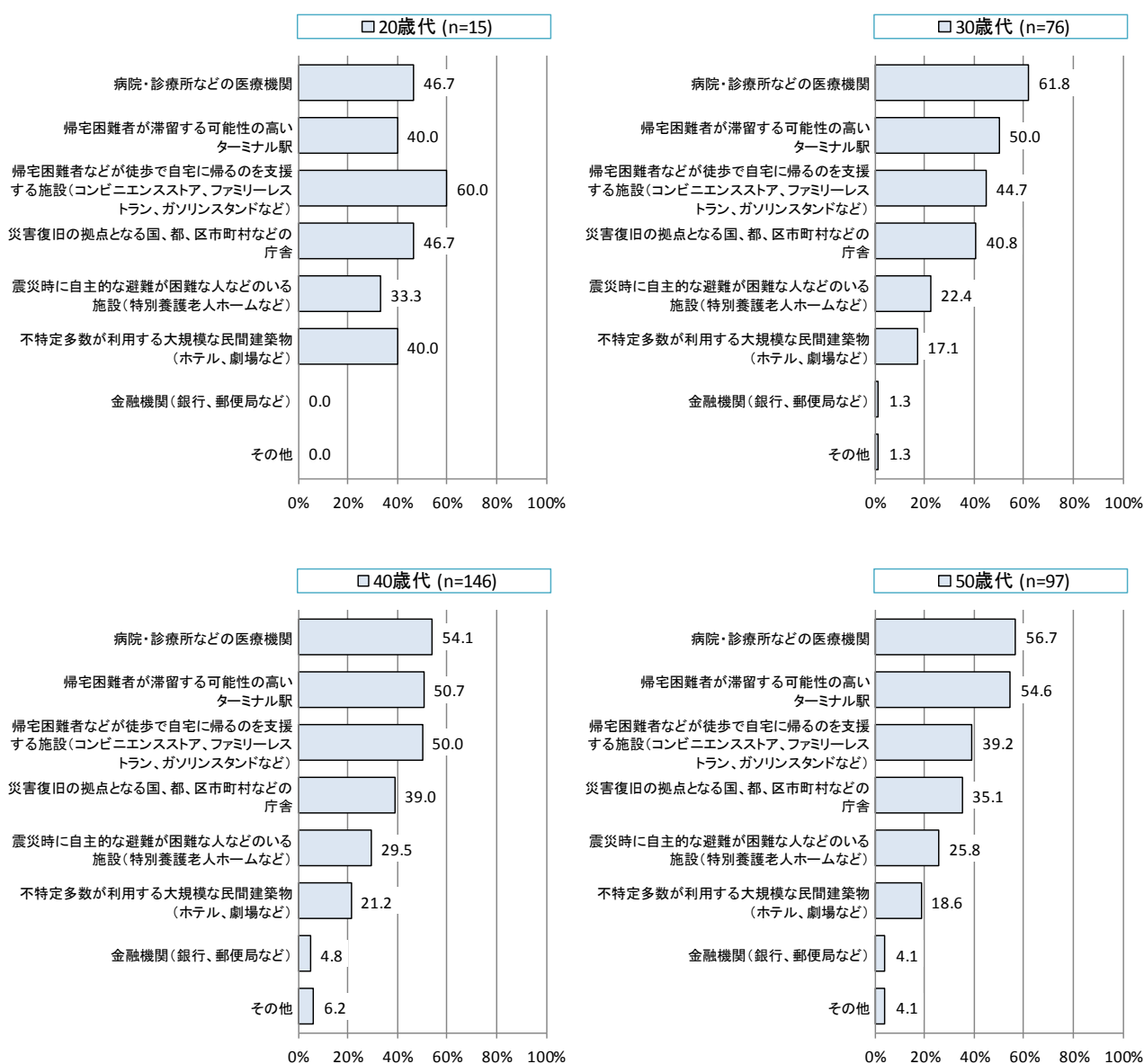


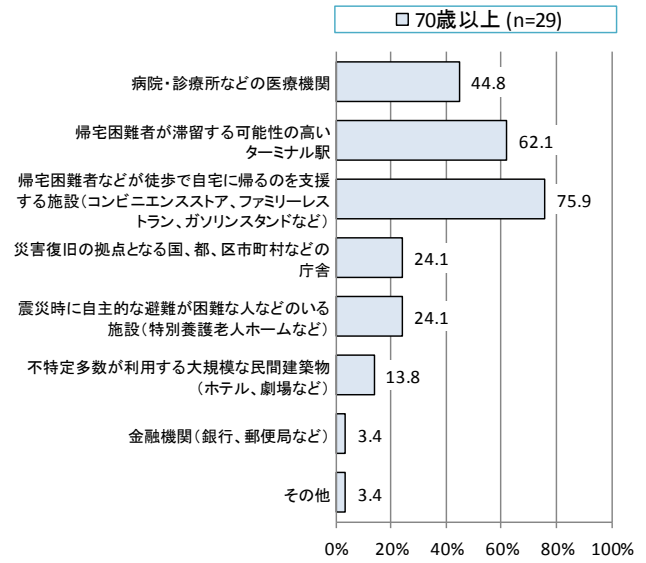
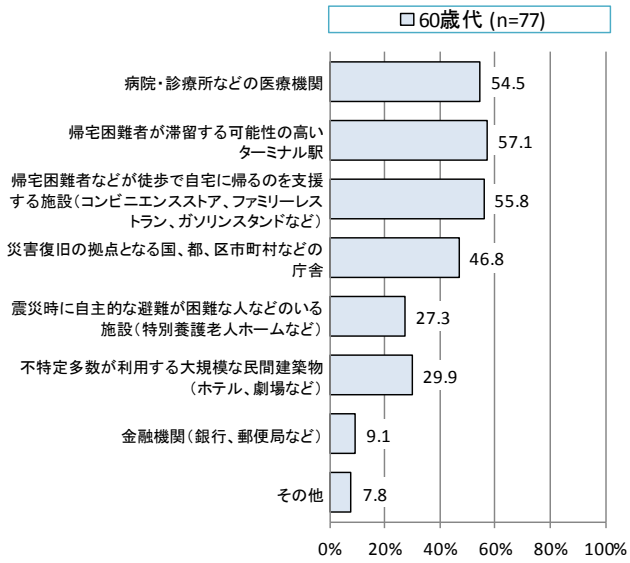
### 5-3. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は30歳代が61.8%と最も高く、次いで50歳代が56.7%、60歳代が54.5%であり、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は70歳以上が62.1%と最も高く、次いで60歳代が57.1%、50歳代が54.6%であった。また、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は70歳以上が75.9%と最も高く、次いで20歳代が60.0%であった。

Q9. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図5-3 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔年代別〕





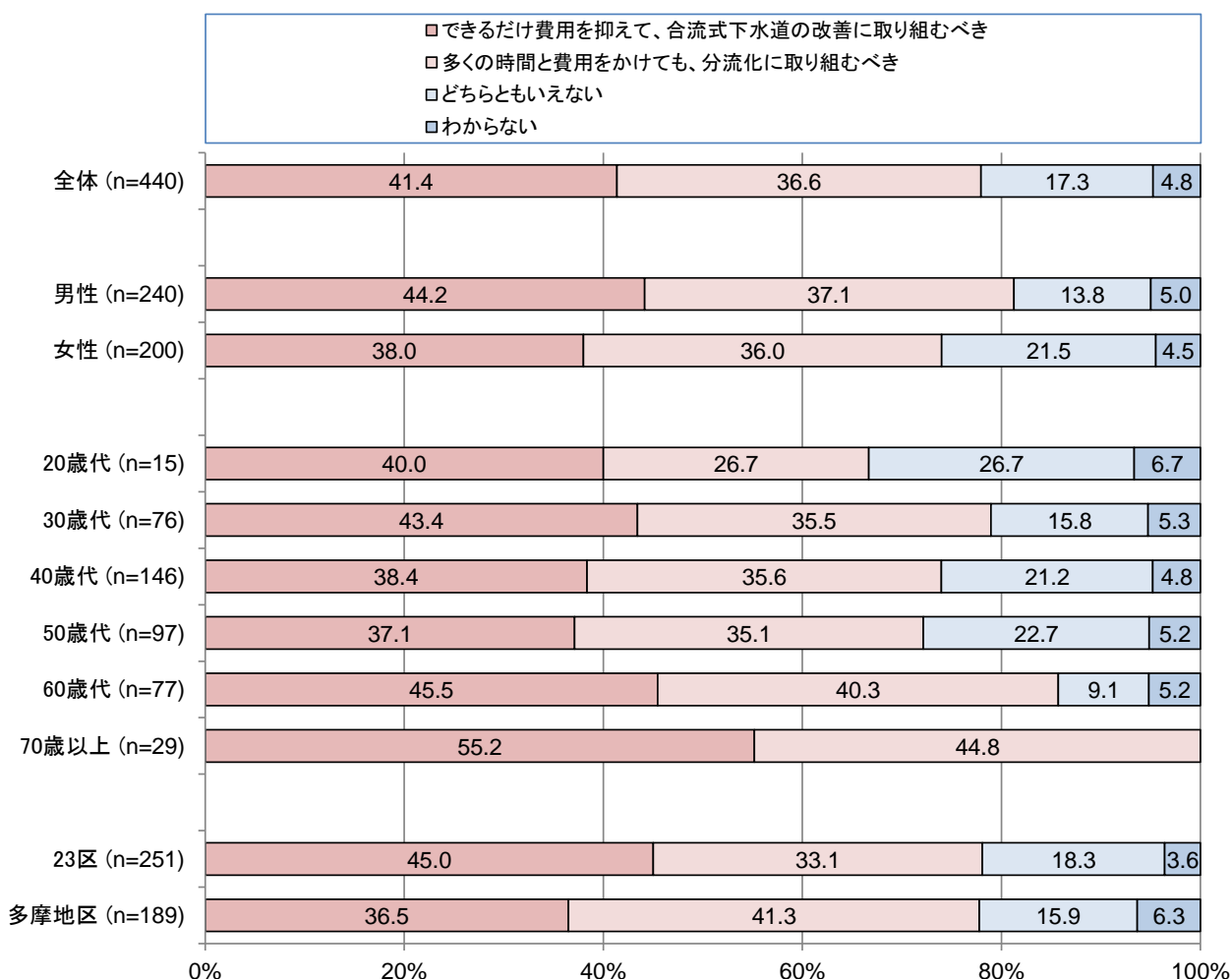
## 6. 『合流式下水道の課題への取組』

### 6-1. 合流式下水道の課題への取組

- ◆ 合流式下水道の課題への取組については、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」が41.4%と最も高く、次いで「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」が36.6%であった。
- ◆ 性別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は男性が44.2%、女性が38.0%、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は男性が37.1%、女性が36.0%と男性の方がそれぞれ6.2ポイント1.1ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」と「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」はともに70歳以上がそれぞれ55.2%、44.8%と最も高く、次いで60歳代がそれぞれ45.5%、40.3%であった。
- ◆ 地域別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は23区が45.0%、多摩地区が33.1%と23区の方が11.9ポイント高く、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は23区が36.5%、多摩地区が41.3%と多摩地区の方が4.8ポイント高かった。

Q10. あなたは、合流式下水道の課題を解決するためにどのような取組を行うべきと考えますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。(単一回答)

図6-1 合流式下水道の課題への取組



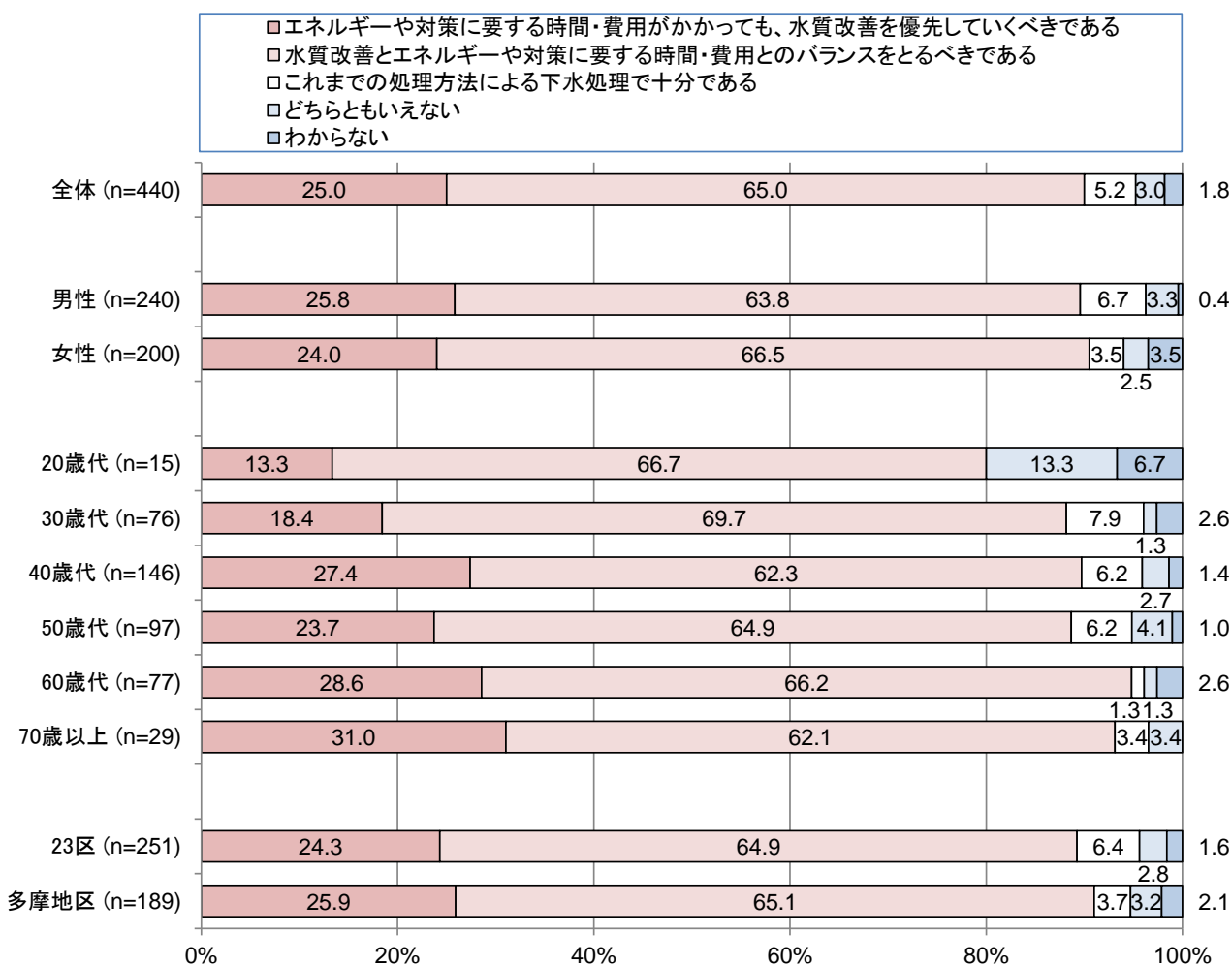
## 7. 『下水の処理方法』

### 7-1. 下水の処理方法

- ◆ 下水の処理方法については、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」が 65.0%と最も高く、次いで「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」が 25.0%であった。
- ◆ 性別でみると、「質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」は男性が 63.8%、女性が 66.5%と女性の方が 2.7 ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」は 30 歳代が 69.7%と最も高く、次いで 20 歳代が 66.7%、60 歳代が 66.2%であった。
- ◆ 地域別でみると、「質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスを取るべきである」は 23 区が 64.9%、多摩地区が 65.1%と多摩地区の方が 0.2 ポイント高かった。

Q11. 以上のことを踏まえ、下水の処理について今後どのようにしていくべきと考えますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。(単一回答)

図7-1 下水の処理方法



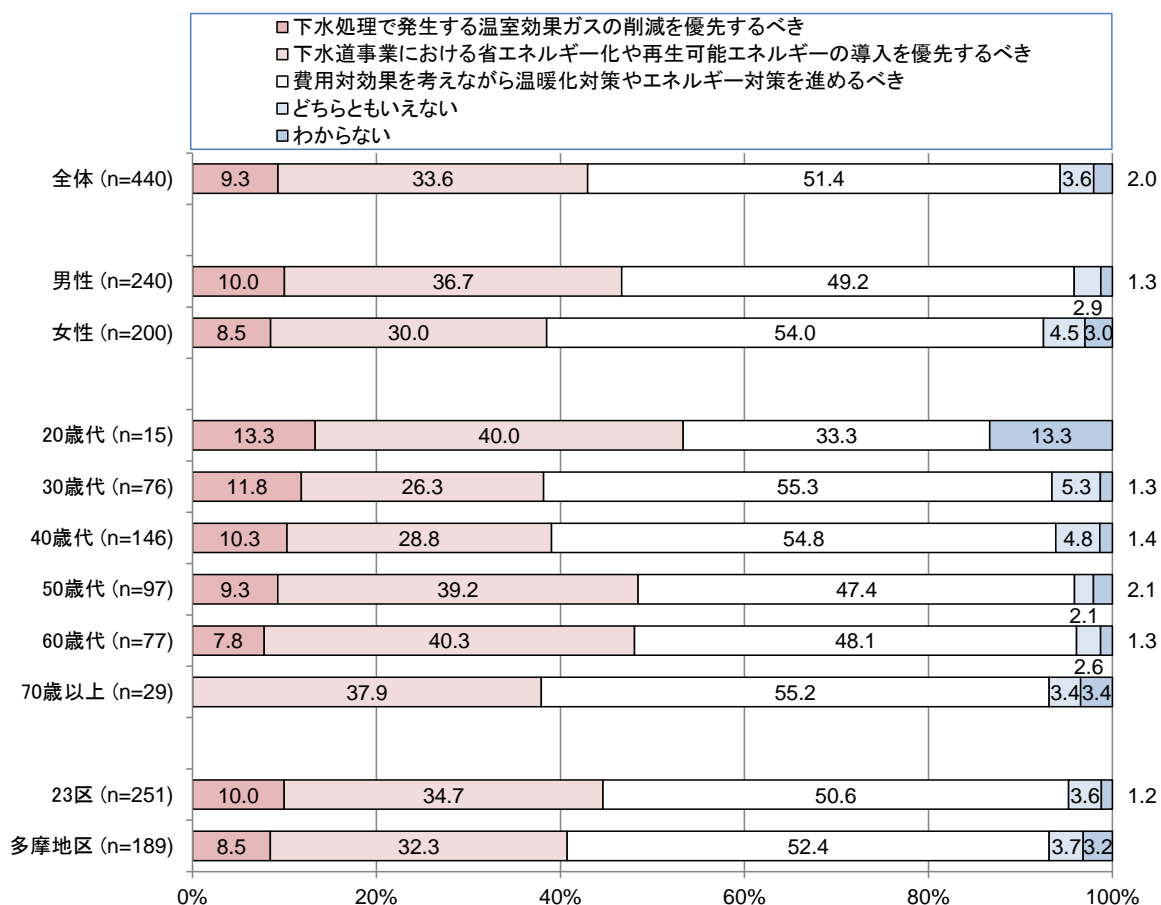
## 8. 『地球温暖化対策について』

### 8-1. 地球温暖化対策

- ◆ 地球温暖化対策については、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」が51.4%と最も高く、次いで「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」が33.6%であった。
- ◆ 性別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は男性が49.2%、女性が54.0%と女性の方が4.8ポイント高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は男性が36.7%、女性が30.0%と男性の方が6.7ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は30歳代が55.3%と最も高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は60歳代が40.3%と最も高かった。
- ◆ 地域別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は23区が50.6%、多摩地区が52.4%と多摩地区の方が1.8ポイント高かった。

Q12. 以上のようなことを踏まえ、あなたは、今後下水道事業における地球温暖化対策において、どのようなことを最も優先するべきと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。  
(単一回答)

図8-1 地球温暖化対策



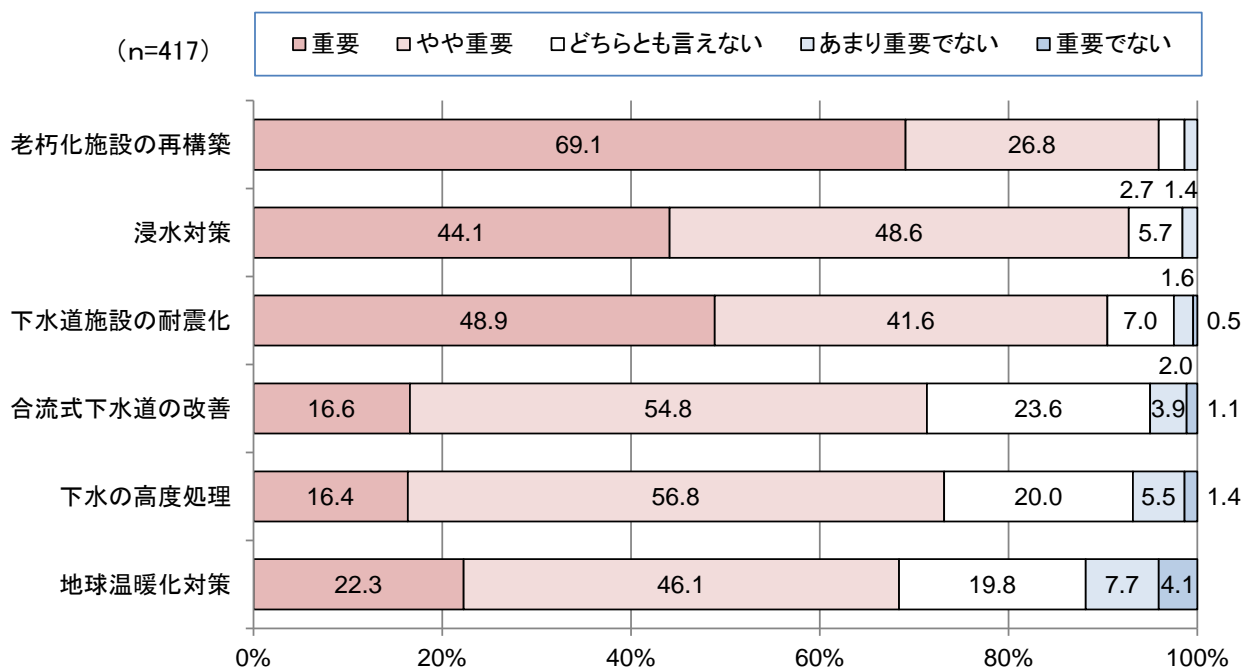
## 9. 『各施策の重要度』

### 9-1. 各施策の重要度〔全体〕

- ◆ 各施策の重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた【重要】は、「老朽化施設の再構築」が95.9%と最も高く、次いで「浸水対策」が92.7%、「下水道施設の耐震化」が90.5%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施設について、あなたはどのように考えますか。以下に示す格施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-1 各施策の重要度〔全体〕

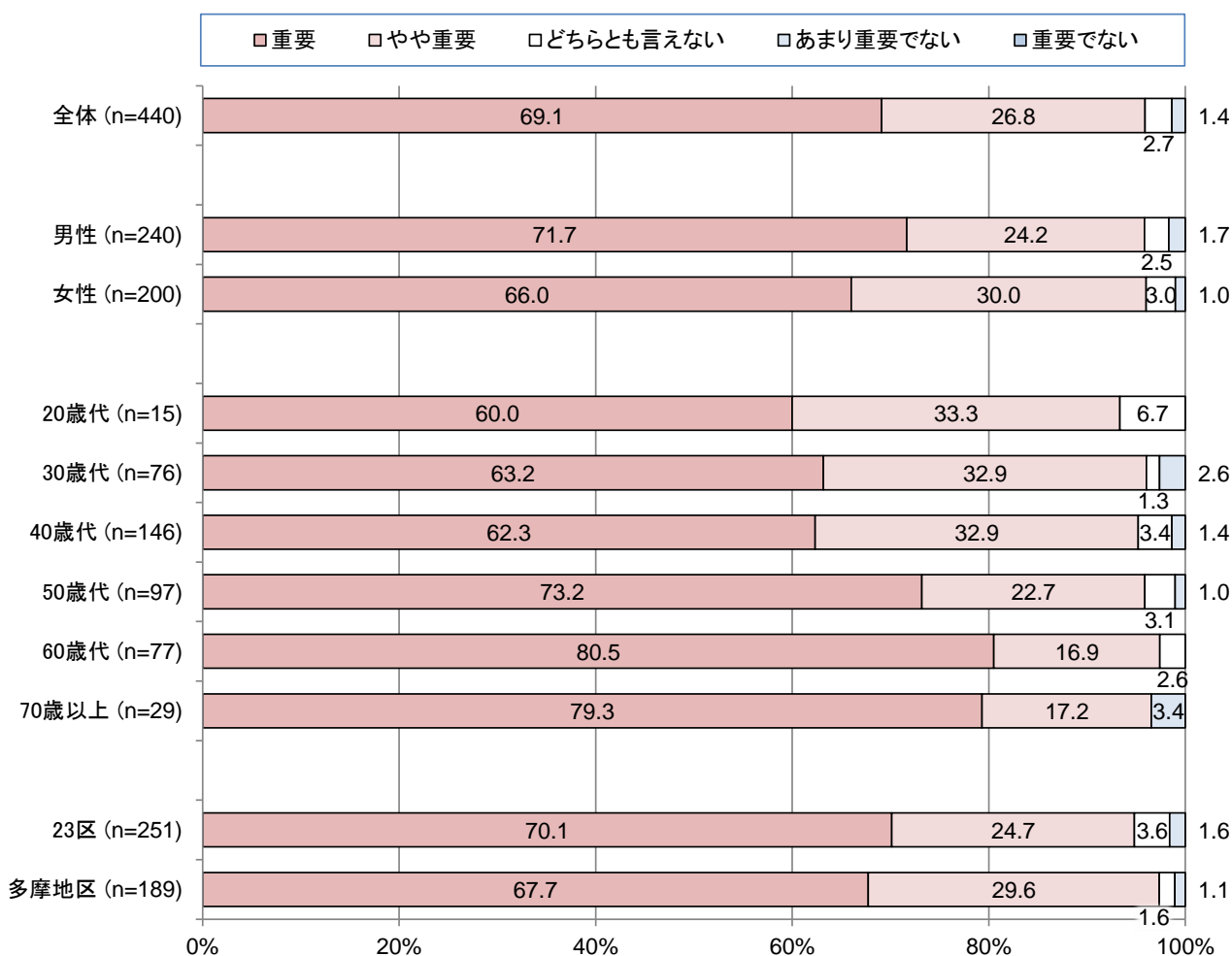


## 9-2. 各施策の重要度【老朽化施設の再構築】

- ◆ 【老朽化施設の再構築】については、「重要」が69.1%、「やや重要」が26.8%であった。
- ◆ 性別で見ると、「重要」は男性が71.7%、女性が66.0%と男性の方が5.7ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「重要」は60歳代が80.5%と最も高く、20歳代が60.0%と最も低かった。
- ◆ 地域別で見ると、「重要」は23区が70.1%、多摩地区が67.7%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施設について、あなたはどのように考えますか。以下に示す格施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-1 各施策の重要度【老朽化施設の再構築】



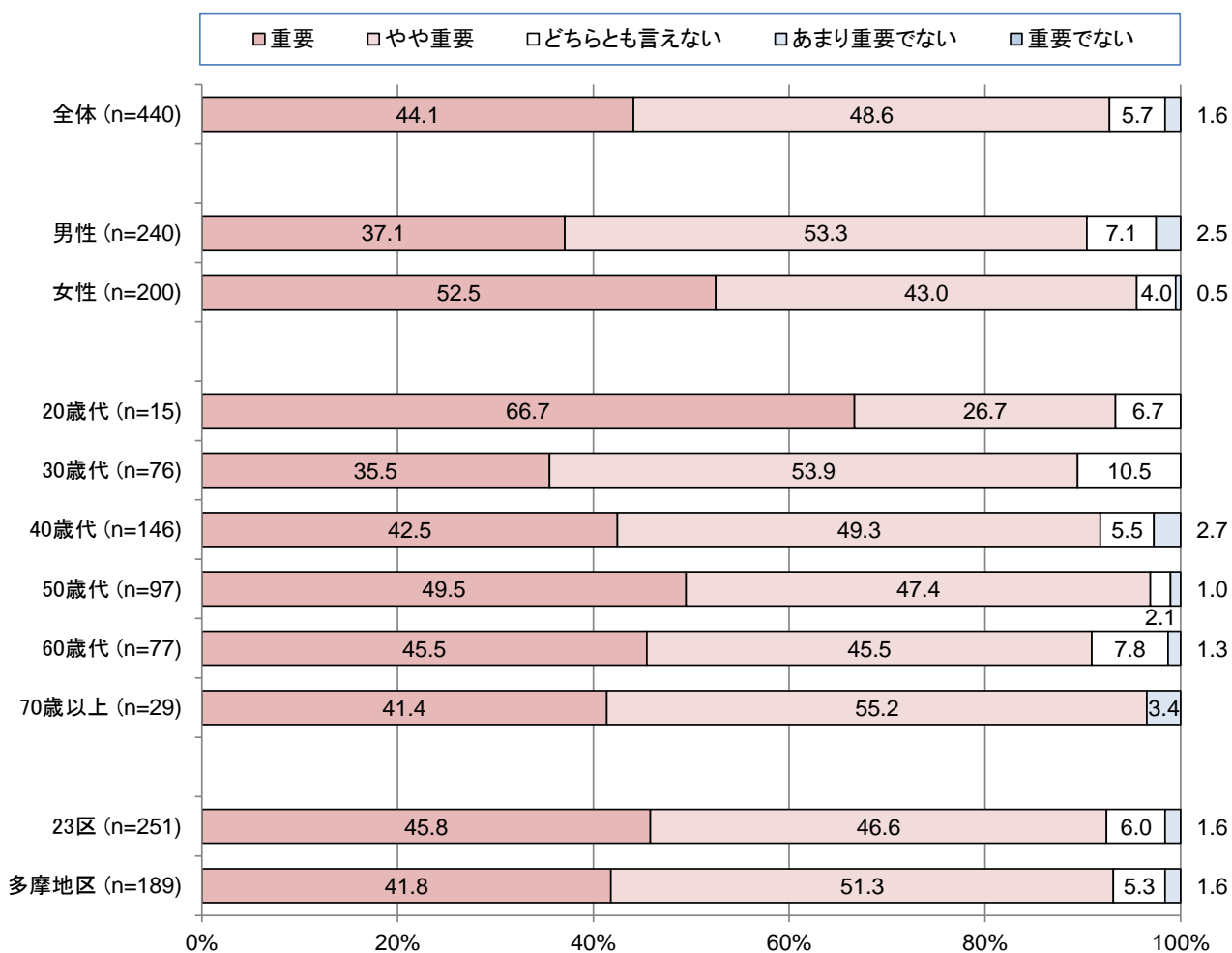


## 9-2. 各施策の重要度【浸水対策】

- ◆ 【浸水対策】については、「重要」が44.1%、「やや重要」が48.6%であった。
- ◆ 性別で見ると、「重要」は男性が37.1%、女性が53.3%と女性の方が16.2ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「重要」は20歳代が66.7%と最も高く、30歳代が35.5%と最も低かった。
- ◆ 地域別で見ると、「重要」は23区が45.8%、多摩地区が41.8%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施設について、あなたはどのように考えますか。以下に示す格施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-2 各施策の重要度【浸水対策】

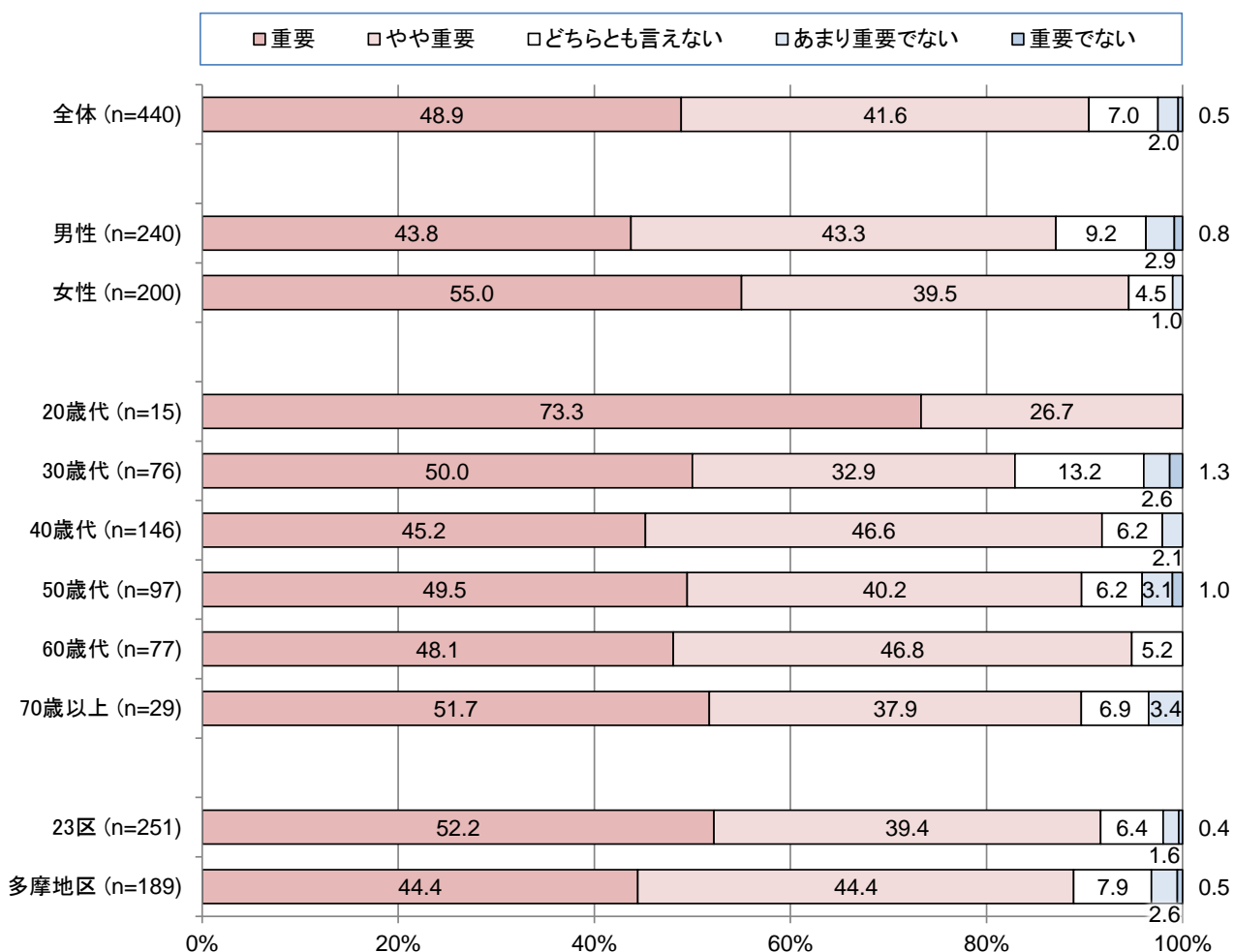


## 9-2. 各施策の重要度【下水道施設の耐震化】

- ◆ 【下水道施設の耐震化】については、「重要」が48.9%、「やや重要」が41.6%であった。
- ◆ 性別で見ると、「重要」は男性が43.8%、女性が55.0%と女性の方が11.2ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「重要」は20歳代が73.3%と最も高く、40歳代が45.2%と最も低かった。
- ◆ 地域別で見ると、「重要」は23区が52.2%、多摩地区が44.4%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施設について、あなたはどのように考えますか。以下に示す格施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-3 各施策の重要度【下水道施設の耐震化】

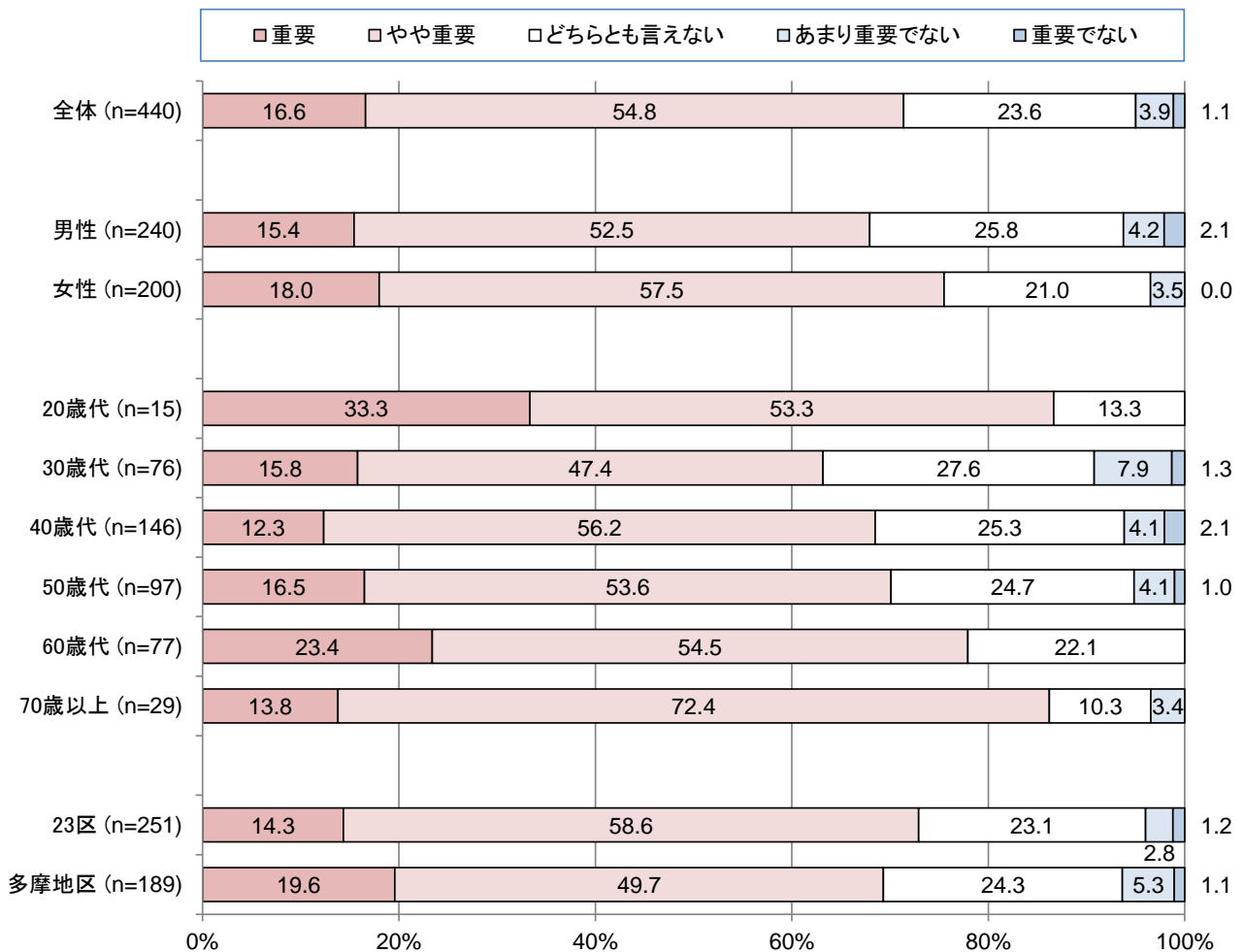


## 9-2. 各施策の重要度【合流式下水道の改善】

- ◆ 【合流式下水道の改善】については、「重要」が16.6%、「やや重要」が54.8%であった。
- ◆ 性別で見ると、「重要」は男性が15.4%、女性が18.0%と女性の方が2.6ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「重要」は20歳以上が33.3%と最も高く、40歳代が12.3%と最も低かった。
- ◆ 地域別で見ると、「重要」は23区が14.3%、多摩地区が19.6%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施設について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-4 各施策の重要度【合流式下水道の改善】

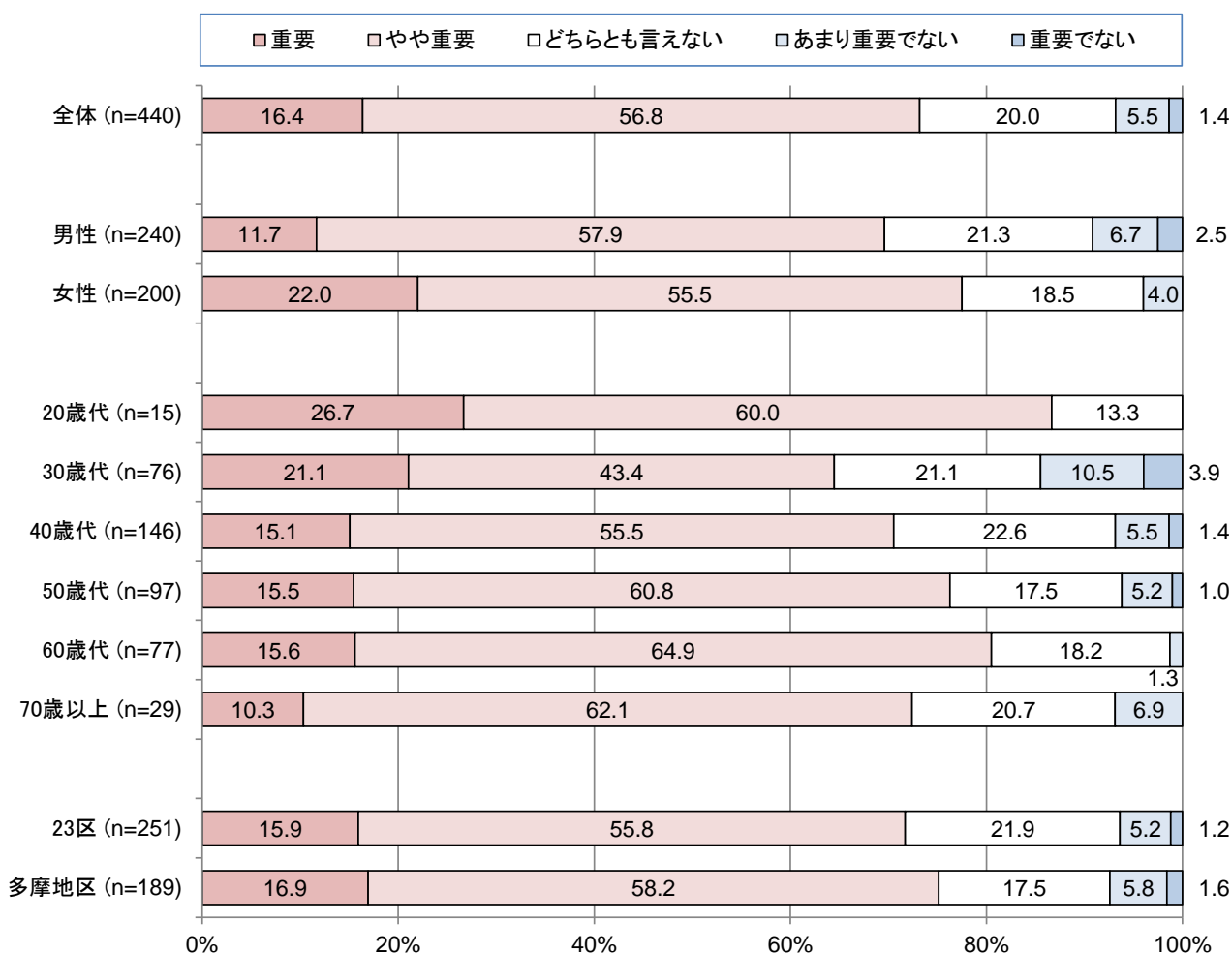


## 9-2. 各施策の重要度【下水の高度処理】

- ◆ 【下水の高度処理】については、「重要」が16.4%、「やや重要」が56.8%であった。
- ◆ 性別で見ると、「重要」は男性が11.7%、女性が22.0%と女性の方が10.3ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「重要」は年齢が下がるにつれ割合が高くなっており、20歳代では26.7%と最も高かった。
- ◆ 地域別で見ると、「重要」は23区が15.9%、多摩地区が16.9%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施設について、あなたはどのように考えますか。以下に示す格施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-5 各施策の重要度【下水の高度処理】

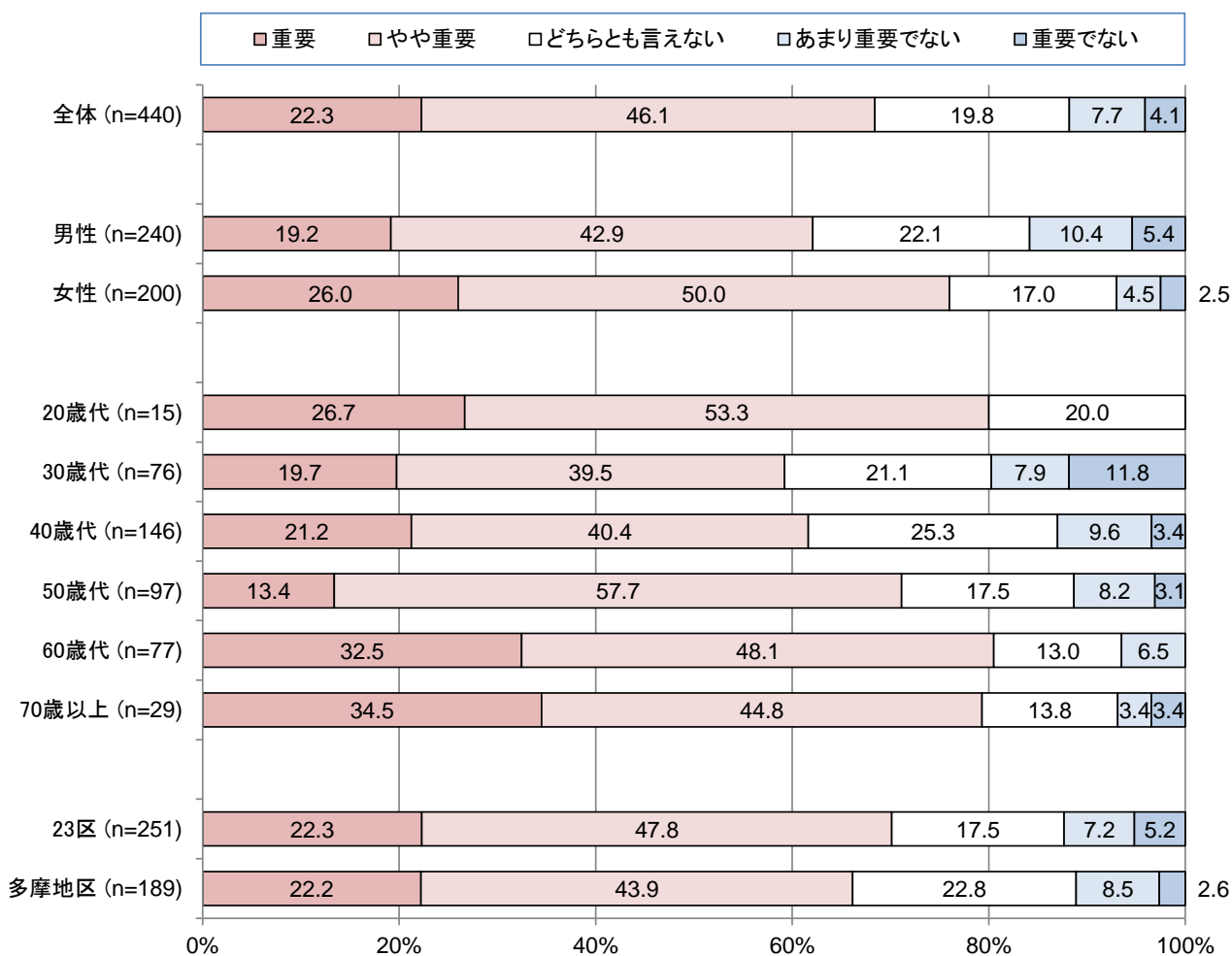


## 9-2. 各施策の重要度【地球温暖化対策】

- ◆ 【地球温暖化対策】については、「重要」が22.3%、「やや重要」が46.1%であった。
- ◆ 性別で見ると、「重要」は男性が19.2%、女性が26.0%と女性の方が4.8ポイント高かった。
- ◆ 年代別で見ると、「重要」は70歳以上が34.5%と最も高く、50歳代が13.4%と最も低かった。
- ◆ 地域別で見ると、「重要」は23区が22.3%、多摩地区が22.2%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施設について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-6 各施策の重要度【地球温暖化対策】

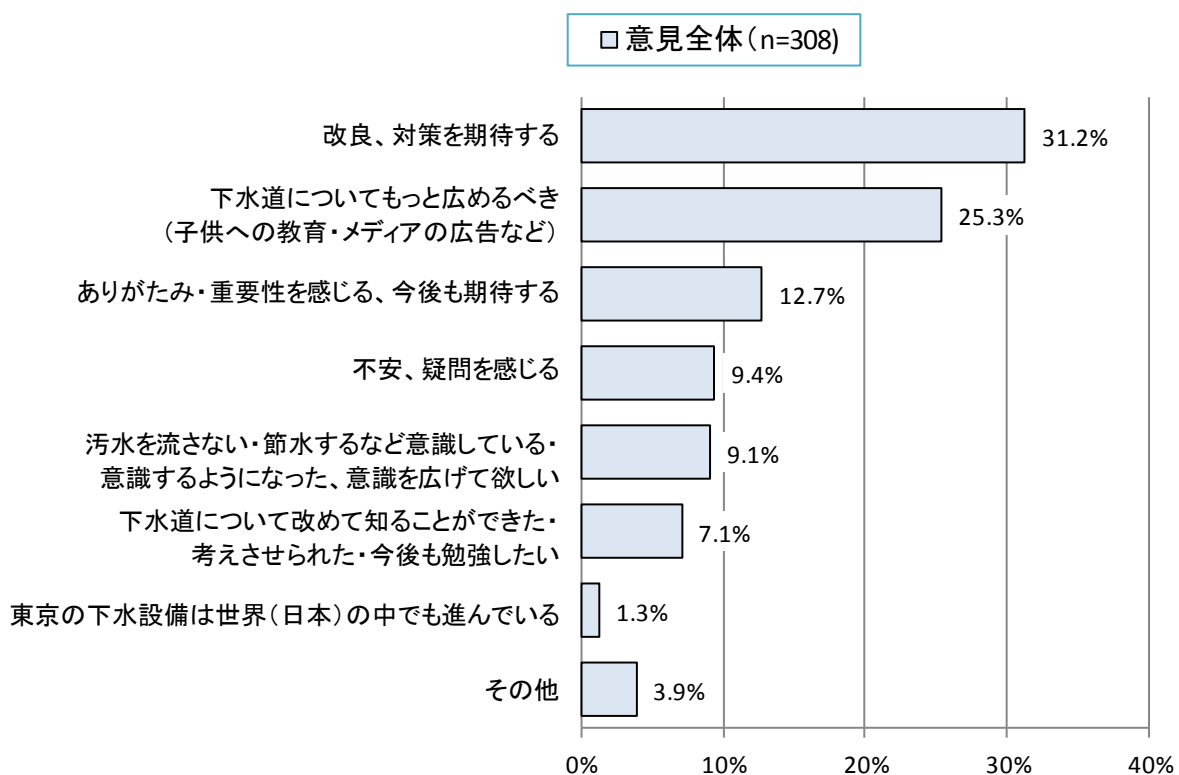


### 9-3. 下水道についての意見〔自由回答〕

- ◆ 下水道についての意見については、「改良、対策を期待する」が 31.2%と最も高く、次いで「下水道についてもっと広めるべき（子供への教育・メディアの広告など）」が 25.3%であった。
- ◆ また、「東京の下水設備は世界（日本）の中でも進んでいる」が 1.3%であった。
- ◆ 以下に、東京都下水道局への意見の一部を紹介する。

Q14. あなたが下水道について日頃から考えていることやご意見がございましたら、お聞かせください。  
（自由回答）

図9-3 下水道についての意見〔自由回答〕



## 1. 改良、対策を期待する

- ◇ お金はかかることだと思いますが、老朽化した下水道の取り換えは、優先してやるべきだと思っています。（30歳代女性、23区）
- ◇ 下水道事業の中で再生エネルギーを活用することができないかどうかについて官民一体となって研究し、活用の実現を図ってほしいと考えている。（60歳代男性、23区）
- ◇ 都市部で降雪時に雪を排除するところが無くて、下水道に流せるとかの仕組みを作ってほしい。また、上下水道基本料金をもう少し安くしていただくと助かります。（40歳代女性、多摩地区）
- ◇ ゲリラ豪雨、水質改善、大規模震災対策に直結する大都会の下水道は国民共通の最重要なインフラ整備です。もっと大胆に計画の推進を進めて下さい。（50歳代男性、多摩地区）

## 2. 下水道についてもっと広めるべき（子供への教育・メディアの広告など）

- ◇ 普段家庭の仕事に直結していることが多々あるので主婦等の皆さんの耳に入るイベント等が有ればいいのではと思います。（60歳代女性、23区）
- ◇ 下水道の一部でも私たちの目に見えるようになれば、川がきれいになったように下水も多少はきれいになるのではと思います。（40歳代男性、23区）
- ◇ 学校教育から改善して、下水道の設備について子供たちとその親世代に、もっと理解を深めていただくのが、近道ではないでしょうか。（50歳代女性、多摩地区）
- ◇ 東日本大震災の際には、どれくらい市民生活に影響が出たのか広報して欲しい。（30歳代男性、多摩地区）

## 3. ありがたみ・重要性を感じる、今後も期待する

- ◇ 3区内に住んでいるので、今の所地震や水害の被害もなく何不自由なく過ごしています。関係者のご努力のお陰と感謝しています。（70歳以上女性、23区）
- ◇ 利用料金などを考えても大変ありがたい、生活に寄り添うインフラで料金の値上げなどしても良いと思う。（40歳代男性、23区）
- ◇ 下水道がある生活が当たり前のこととして暮らせることが幸せなことなんだと、災害が起きたときに特に思います。しかし、災害が起こると途端にうまく処理できなくなることも問題ではあると思いつつ、私たちが日頃からできることはあるのだろうかとも思います。（30歳代女性、多摩地区）
- ◇ 事故の発生や、事件の発生で下水道関連が報道されると、その対応や復旧に係られる作業当事者・関係者のご苦勞に敬意と感謝の気持ちを感じます。御苦勞様です。（70歳以上男性、多摩地区）

## 4. 不安、疑問を感じる

- ◇ HPなどで確認していますが、いまだにヨウ素が検出されていたりするので一体何が原因で検出されるのか知りたい。（40歳代女性、23区）
- ◇ 下水道系配管類の漏れ状況または改修費用等どこかで公表できないでしょうか。どの程度の費用が発生しているのかを知りたい。（70歳以上男性、23区）
- ◇ どのようにしたら水質を汚染しないか、家庭でできることをもっと教えてほしい。食器用洗剤、トイレ用洗剤、風呂用洗剤、洗濯用洗剤など、本当はどれも水質汚染につながるのではないかと思います。（30歳代女性、多摩地区）
- ◇ 下水施設に関して、各個人の居住エリアという狭い範囲で見た時にどの程度老朽化しているか？がわからない。（50歳代男性、多摩地区）

5. 汚水を流さない・節水するなど意識している・意識するようになった、意識を広げて欲しい
- ◇ 家庭から出る排水に油が流れ込まないように出来るだけ処理してから食器類を洗うようにしています。(50歳代女性、23区)
  - ◇ 洗剤のTVコマーシャルで、油をふき取らずに、洗剤をかけた後に水で流す場面が多々あります。直接排水口に流すのではなく、脂分を紙や古布できれいにふき取ってから、洗うように仕向けるよう、洗剤メーカーに協力を要請してください。(50歳代男性、23区)
  - ◇ 個人ができることは限られていますが、日常の排水に油を流さないようにする等心掛けています。水道水が飲用に耐えられる、水害時でも汚水を抑えられる、そういった取り組みに対しても協力できたらと思っています。(30歳代女性、多摩地区)
  - ◇ 都民何千万人が毎日流す下水。途方もない量になると思います。なるだけ少なくなるように心がけたいと思います。(70歳以上男性、多摩地区)

6. 下水道について改めて知ることができた・考えさせられた・今後も勉強したい

- ◇ 災害などで、上水道がでないのも大変困るが、下水が処理されないことも本当に困るということをあまり実感として持っていなかった。(50歳代女性、23地区)
- ◇ 東京都の進んだ下水道処理施設を実見してみたい。(70歳以上男性、23区)
- ◇ 毎日の生活のなかで、私自身が下水道ほとんど考えていなかったのが反省点です。今回のモニターアンケートの役割をいただき、大変勉強に成りました。(60歳代女性、多摩地区)
- ◇ モニターを始めて以来、台風やゲリラ豪雨の際に下水道の処理能力について多少意識するようになりました。(30歳代男性、多摩地区)

7. 東京の下水設備は世界（日本）の中でも進んでいる

- ◇ 他県で水を飲んだ時、東京の水はレベルが高いと思いました。(30歳代女性、23区)
- ◇ 何の気なしに使っている下水道ですが、世界を見回してもこれだけインフラが整備されているのは、日本だけではないでしょうか？(50歳代男性、23地区)
- ◇ 日本は下水道設備がしっかりしているおかげでトイレトーパーを流すことができると思う。(30歳代女性、多摩地区)
- ◇ 老朽管補修のめどが立たない自治体もあるようだが、江戸の昔から水を大切に考えてきた東京都に住んでいてよかった、と思う。(70歳以上男性、多摩地区)

8. その他

- ◇ ノロだけではないかもしれませんが、下水道で処理しきれない菌も多いのでしょうか。(30歳代女性、23区)
- ◇ 下水道施設は縁の下の働き手で、自然災害などの際に改めてそれを実感します。(60歳代男性、23区)
- ◇ 家屋の新築時における下水道局への届出（申請）の徹底および指定事業者しか工事に携われないことを元請の建設会社や排水設備業者へ通達を行って頂きたい。(60歳代女性、多摩地区)
- ◇ 油断大敵のキャンペーンを実施されているが、油が本当に詰まりの原因になっているのなら、法令や条例による規制が必要だと思う。(40歳代男性、多摩地区)